



「三島由紀夫の本籍地 加古川」

三島由紀夫をご存知でしょうか？日本の小説家・劇作家・随筆家・評論家・政治活動家・民族主義者……。本当にマルチな才能を発揮した人物として評価されています。数年前には、ノーベル文学賞の候補だったという記事が掲載され、再評価をされました。代表作は小説『仮面の告白』『潮騒』『金閣寺』『鏡子の家』『憂国』『豊饒の海』などです。本名は平岡公威（ひらおか きみたけ）で、1925年（大正14）1月14日に生まれ、1970年

（昭和45）11月25日、楯の会隊員4名と共に、自衛隊市ヶ谷駐屯地（現：防衛省本省）を訪れて東部方面総監を監禁します。その際に幕僚数名を負傷させ、部屋の前のバルコニーで演説しクーデターを促し、その約5分後に割腹自殺を遂げました。



さて、その三島の本籍地が加古川であり、徴兵検査のため加古川を訪れていたのです。現加古川市立図書館（旧加古川町公会堂、写真）の横に今もある松の木の下で、三島由紀夫が徴兵検査を受けたとのエピソードが残っています。この図書館は、1935年（昭和10）に建設され、現在兵庫県景観形成重要建造物に指定されています。この建物を設計した置塩章は、公共建築物を多く手がけ、兵庫県庁で都市計画地方委員会技師、内務部営繕課長等を歴任します。兵庫県きしゅう徽章のデザインを行った他、県会議事堂、警察署、学校など多くの施設の設計を指導し、兵庫県建築士会の初代会長となっています。

三島由紀夫から加古川のすばらしさを再確認させてもらいました。



ぶらり加古川 第8号

平成 27 年 8 月